

今月のピックアップ

福岡市、学校給食合理化の現状と給食運動

福岡市では、老朽化した中学校給食センターの建て替え問題および小学校自校方式給食の調理の民間委託の問題について検討が進められてきましたが、具体的な動きとなって見えてきました。

そこで、福岡市の状況をまとめるとともに、長年学校給食について取り組んできた保護者、市民、学校給食関係者らによる連絡会議の声を紹介します。

■中学校、大規模センターをPFI方式で（動き出した第1センター）

福岡市は、中学校給食をセンター方式で実施していますが、老朽化等に対して再整備のあり方が問題となっていました。2010年10月に「福岡市学校給食センター再整備基本構想」がまとめられ、3センターで新築統合していく方針です。同月「(仮称)第1給食センター整備計画検討委員会」が発足、2011年1月には委員会報告がまとめられ、福岡市は2011年3月31日に、「(仮称)第1給食センター整備計画」が策定され、その後、具体的な整備計画が進められています。

第1給食センター(仮称)は、PFI方式で行われ、設計、建設、運営、調理を特定目的会社(SPC)が実施することになります。

公開されている「要求水準書」によると、今回の第1給食センター(仮称)は、2014年9月より稼働する供給能力最大13000食の大規模センターです。学校給食の提供期間は2029年までの15年。開始当初、22中学校および5特別支援学校を予定。中学校は2献立、特別支援学校は1献立。いずれも副食3品で、特別支援学校の小学校

学年、中学校学年の献立の区別はなく、量で調整されます。また、炊飯施設はなく、アレルギー対応・特別支援学校二次加工対応食用にのみ炊飯施設を導入。

卵は、殺菌液卵を使用し、生卵は使用しません。

アレルギー対応食は、中学校、特別支援校合わせて最大150食程度。特別支援学校には二次加工食(嚥下食等)50食程度を想定。アレルギー対応は、除去食を基本に除去割合が多いものは代替食を提供。対象を、表示義務原料7品目およびごま・ごま油としています。

特定目的会社に対しては、献立作成支援業務、食育支援業務も含まれます。福岡市の献立作成等に係る会議に出席し、主にアレルギー対応食、特別支援学校献立作成に関した食材、献立、調理方法等を提案することになっています。食育は試食会への協力。

2時間喫食を確保することが求められています。

献立、食材は福岡市の提供です。

なお、食器はPEN樹脂、箸は持参を推進とのこと。

このPFI事業に対して4事業者が手を挙げており、近々事業者が発表され、2012年中には事業契約が結ばれる予定です。

なお、第1センターは、オール電化が想定されていますが、「要求水準書」で、「停電時等における円滑な熱源供給の確保に配慮」という文言が加えられています。

(検討がはじまった第2センター)

後述しますが、保護者などからは、4センターから3センターへの統合による大規模化や特別支援学校の給食に対するあり方、PFI方式の問題点、将来の大地震等災

害時の対応、地場産使用のあり方などから、第1センターが稼働した後に、第2センターのあり方を検討するよう求める声が上がっています。しかし、福岡市では2012年7月に「第2給食センター(仮称)整備計画検討委員会」を立ち上げ、2016年度には第2センターを稼働させる方針です。この検討委員会は、建築学、経済学、栄養学・食品衛生学の専門家と、保護者代表3名、中学校校長会と特別支援学校校長会から各1名に、教育委員会の2名で構成されています。委員会は、予定では3回、2012年11月までとなっており、必要に応じてもう1回開催されるかも知れないとのこと。

そこで議題として上げられているスケジュールによると、第2給食センターは、整備計画を2012年中には決定することとなっています。また、第3給食センターも2014年度には整備計画策定に入る予定で、2018年には稼働する予定です。

第2給食センターも、第1給食センターと同様に13000食の大規模センターとなります。

第2給食センターの最大の特徴は、香椎パークポートと呼ばれる福岡市が所有する臨界地区に設置される点です。また、福岡市の湾岸域を配送エリアとするため、場所によっては、第一センターの方が近い学校も出てくるなどの立地上の制約もかかっています。もっとも遠い学校で配送予定時間を49.7分としており、都市部であることと喫食2時間以内を考えると、厳しい条件が最初から設定されています。

なお、第1センターとの違いについて、事務局案では、「災害時等においても調理機能を維持できる施設整備」とすることを求めたいとしています。

一方、第1給食センターでは、食育研修室を設け、食育の拠点と位置づけていますが、第2センターでは不要とされ、「食育機能として真に必要と考えられる施設見学者対応用の部屋、全工程見学通路、通路・壁面等を活用した情報発信スペースを設置する」と位置づけています。

事務局案や第2回委員会議事録を見る限り、PFI方式に向かった調整が進むようです。

■小学校自校方式給食の調理の民間委託試行

福岡市の小学校給食は、自校方式で、全市統一献

立、一括購入、直営調理方式で行っています。

これについて、長年、調理員の退職不補充、非常勤化などの合理化が進められてきましたが、調理の民間委託が試行導入されることになりました。

2012年9月より、6つの小学校で行われます。3校は一富士フードサービス株式会社が受注し、3校は、学校法人中村学園中村学園事業部が受注して実施されます。試行期間は、2013年度1学期まで約1年間で、2013年3月に検証の中間報告、同年8月に検証の最終報告行うとしています。また、この6校は、大規模校(701~1100食)、中規模校(501~700食)、小規模校(301~500食)を各2校ずつを選定したとしています。

■子ども達の将来のために、これでいいのか ~連絡会議の問いかけ

福岡市では、保護者、学校給食関係者などが「学校給食を考える福岡市連絡会議」を設立し長年にわたって、学校給食の食の安全、教育などについての取り組みを行っています。

第1給食センターや小学校の民間委託の動きなどについて、2011年11月に福岡市教育委員会に申し入れを行い、さらに、その後、福岡市議会に対し署名を添えた請願を行いました。2012年9月20日の市議会にて、請願は不採択となりました。

ここでは、申し入れ、請願、請願書に対する委員会での口頭陳述を、学校給食を考える福岡市連絡会議の了解を得て転載します。ぜひ参考になさってください。

(申し入れ書)

福岡市教育委員会 御中

2011年11月1日「学校給食の改善を求める申し入れ」

学校給食を考える福岡市連絡会議 代表原昌子(当時)

私たち「学校給食を考える福岡市連絡会議」は、食材や調理を通じた地域とのつながりや、教科教育との関係など「食教育」として多くの可能性を持つ学校給食の役割を重視するとともに、子どもたちの健康と権利を守り、健やかな成長を願って、「安全で安心」「おいしい」学校給食を目指して長年に亘って活動を進めている市民団体です。

子どもたちの健やかな成長と健康な学校生活を過ごすために欠かせない「学校給食」に求められる第一義は安全であることです。私たちは、学校給食の安全性について、これまで委託米飯によるプラスチック米飯缶の改善や食具の改善、また社会問題となっている環境ホルモン問題や遺伝子組み換え食品などの有害食品のこと、地場生産の農産物のことなどについての学習を進めてきました。

当会として、子どもたちが安心して学校給食を食べていけるよう、以下改善をお願いします。

1. 給食に供する食材の安全・安心確保について更なる徹底をお願いします。

①遺伝子組み換え食品を学校給食から減らしていく事を求めます。

・まずは「福岡市学校給食用物資納品規格集」に遺伝子組み換えでないものを優先する旨を明記することから始めるをお願いします。

②食材の放射性物質の検査について更なる徹底と検査結果の公表の継続をお願いします。

・今後、放射能汚染が拡散しその範囲が拡大していく可能性があります。また、セシウム137の半減期は約30年で、長期間の監視が必要になってきます。迅速・十分に長期間にわたる検査に耐えられるよう必要な対策をお願いします。

2. 国産原材料を基本に地場農畜産物の積極的な使用を求めます。

①地場産農畜産物の更なる積極的な使用をお願いします。

②2010年度の小学校給食及び中学校給食での市内産実績の報告と進捗評価のご説明をお願いします。

3. 安全性を考慮した米飯缶への改善を求めます。

①プラスチック米飯缶の改善を求めます。

・持ち運びにくい大きさ・形状、取っ手ピンの危険性、加えて直接熱い米飯を入れる容器として、プラスチック米飯缶は安全性に問題があると考えています。改善をお願いします。

4. 給食センターの給食食器のランチプレートの改善を求

めます。

①給食センターで使用しているランチプレートの個別食器にすることを求めます。

5. 就学前の児童・保護者対象に試食説明会の実施をお願いします。

①就学前の児童や親は、給食や食に関する疑問や不安を抱えています。試食説明会の実施をお願いします。

6. 中学校給食センターの再整備に関して、PFI方式による民営化ではなく食育基本法・同計画に沿って市が直接責務を全うする体制の維持をお願いします。

①子ども達にどんな給食をたべさせていくか、市民に積極的に意見を聞くべき問題です。しかし、殆どの市民や保護者は建て替え計画の存在自体知らない状態です。今後、市民や保護者の意見を聞くことに関してどのような計画となっているかお知らせください。

②大規模センターでは地産地消は確実に進めにくくなります。現在でも自校方式の小学校給食に比較し地産地消の率はかなり低くなっています。センター再整備の中で地産地消をどう進めていくかお知らせください。

③大規模センターと民営化で食育の取り組みの後退が起らないか危惧されます。センター再整備の中で食育をどう進めていく計画かお知らせください。

④請け負った企業は経費を削り利益を出す必要があります。極端な合理化が進められ、低賃金のパート・非正規労働者の多用、悲惨な労働の上に立った給食にならないか不安です。またパート・非正規労働者の多用は食の専門性を奪い、給食の質の低下が心配されます。その点をどうお考えかお知らせください。

⑤職安法に基づいて、市の栄養士は調理員に紙面以外の直接指導はできなくなります。逆に市が何らかの指導をした場合偽装請け負いとなる可能性があります。その様な中で市として調理内容等にどのように責任を取る計画かお知らせください。

⑥特別支援学校の子供達は、すべての教育活動や学校生活において、個別のきめ細かい対応や支援が必要です。今回のセンター建て替えは特別支援学校に自校方式の給食を取り入れる絶好の機会です。今回、一人ひとりの子ども達の様子に対応したきめ細かい対応を取るようにしていくとお聞きしています。具体的にどのような内

容を計画されているかお知らせください。

⑦4センターから3センターにすれば各センター1万5千食に近い食数となります。あつてはいけないことですが、食中毒の発生等があれば被害は相当規模になります。給食センターは大規模でない方が望ましいと考えます。今回の福島原発の事故はあつてはならないことに備えておくことの重要性が浮き彫りになりました。この点に関してどのように考えられているかお知らせください。

⑧3センターになると、センターから各学校に給食を届ける時間が今よりかかるようになることが考えられます。2時間以内の喫食が全校可能か、特に遠方の特別支援学校が心配されます。2時間以内の喫食を全校実施できる計画の内容をお知らせください。

⑨計画で出てきている「東平尾」の候補地では高濃度のフッ素が検出されています。給食を作る敷地としては不向きだと考えます。市ではフッ素の除去を、掘削した土壌をコンクリートの材料にすることで行うとしています。現在の進捗状況をお知らせください。また、コンクリートの安全性についてご説明をお願いします。

上記の件につきましては、是非、私どもと協議の場を設定していただき、説明や意見交換をさせていただきたいと考えております。宜しくご検討ください。

以上

これについて、市からは回答書が寄せられ、2012年1月19日にそれをもとにした意見交換が行われています。

【請願書】

福岡市議会議長宛

【誓願の趣旨】

福岡市は、市内4ヶ所(那の津支所、有田支所、柳瀬支所、箱崎支所)にある中学校学校給食センターについて、施設の老朽化に対応するため、再整備計画の検討を進めています。新センター構想ではセンターの配置は3箇所、経済性を重視し、第一センターはPFI方式による民間委託の方向で検討の具体化が進んでいます。4センターから3センターへの施設集約は、子ども達から学校給食を遠ざけると共に、大規模な食中毒や地震などの自

然災害での被害の甚大化が懸念されます。

「改定学校給食法」では、「食や自然、食生活にかかわる様々の活動への理解や学校給食を通じた地域文化の理解など、学校給食が持つ食育推進上の教育的意義を明確にする。」「学校給食実施基準を法体系に位置づける」など素晴らしい理念が語られています。

また、平成17年に制定された食育基本法では、食を通じて豊かな人と社会を作っていくことが確認されました。また同法を基に生まれた「食育推進基本方針」の「学校、保育所等における食育の推進」の部分では、「栄養教諭の全国配置の促進、学校での食育の組織的・計画的な推進等」、「学校給食での地産地消の推進」など、ここでも素晴らしい理念が謳われています。

一方で、予算処置のない「衛生管理基準」の押し付けに、市町村の財政問題も絡んで、給食の民営化の拡大が進行しています。給食に関して、素晴らしい理念の浸潤と、行政が給食から離れていく二つのまったく相反する流れが同時に進行していると言えます。

どんな教育や給食を子どもたちに与えるかは、子ども達にどんな大人になって欲しいかの選択そのものです。10年20年50年先の日本を担う子ども達が、「食」や「食を取り巻く人や環境」を大切に感じることができなければ、日本の根幹が揺らぎます。学校給食は生きた教材として非常に大切です。

この大切な学校給食をどうして行くかは、多くの市民の声を聞いて決めていくべきものです。しかし、この間の動きは広く市民の声を聞いてとはなっていません。殆どの市民が再整備のことを知らないのが実態です。市の計画では、第一センターの内容はほぼ決まっており、今後、第二センターの計画の策定に入ることとなります。第二センター以降の計画について、第一センターを実際に稼働させ、課題の洗い出しや保護者・子ども達の評価などを検証し、広く市民の声を聞いた上で、計画を策定していくことを求めます。

【請願事項】

中学校給食センター再整備計画の第二センター以降の計画について、第一センターを実際に稼働させ、課題の洗い出しや保護者・子ども達の評価などを検証し、パブ

リックコメント等の広く市民の声を聞いた上で、計画を作成していくことを求めます。

(陳述書)

平成24年8月24日(金) 第2委員会
23年請願第26号口頭陳情

学校給食を考える福岡市連絡会議の原と申します。先月代表を交代しましたので、現在は中3と小5の男の子の母として、会に参加しています。

昨年12月に提出した『学校給食センター再整備計画について』の請願署名、7228筆を代表して述べさせていただきます。

署名を提出して8ヶ月が経ち、その間1月には小学生保護者へお知らせのペーパーを配布していただき、また2月には博多・南市民センターの2ヶ所で一般市民向けの説明会も開かれ、広く周知していただきありがとうございました。

しかし私が参加した南市民センターの説明会では「これは説明会ではなく報告会ですね、もう決定している事ばかりじゃないですか！」等の意見が多く出ていたと記憶しています。

老朽化の為の建て替えなので、26年度稼働予定の第1センターについてはほぼ決まっています、市民の意見を聞き、反映させる事は難しいかもしれません。しかし第2センターは整備計画検討委員会の段階ですし、第3センターにおいてはまだこれから聞いております。

また、現在古い施設の劣悪な環境の中で『安全で美味しい給食』を作る努力をされている調理員さん達は働く場を失います。1万2千食の大量調理は永年経験を積んだ調理員さんをお願いしたいと思います。

全国的に民間委託は進んでいるようですが、どうか福岡市はその流れに沿わず、コスト削減や効率化の為に教育の一環である『給食』を使わないで下さい。

小・中学校の9年間は人間として心や体を作る大切な時期です。1日3食のうちのたった1食でも、先生や友達と食べる約1800回の給食は、母が作る食事とは違う役割を持っている、と私は思います。

「福岡市は素晴らしい給食を提供している」と言われるよう、子ども達の為により良いものにしていく為、第1センターを稼働させ、課題を洗い出し、子ども達の評価などを検証し、計画を策定していただきますようよろしくお願いいたします。

参考

福岡市 <http://www.city.fukuoka.lg.jp/>

第1給食センター(仮称)整備運営事業 【PFI】

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyoiku-iinkai/kenko/ed/daiichikyushokusenta-seibiuneijigyonituite.html>

第2給食センター(仮称)整備計画検討委員会

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyoiku-iinkai/kenko/shisei/2012-07-02.html>

小学校給食調理業務の民間委託試行を始めます

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyoiku-iinkai/k-unei/kyouikuinnkai-hp/kyuusyokuitakusikoukaisi.html>

トピックス

最新学校給食の放射能測定と公表の現状

学校給食ニュースでは、2012年3月号で最新の測定状況についてご紹介しました。2012年度に入り、測定の方法や公表の方法にも変化が生まれています。

そこで、2012年9月29日に、全国学校給食を考える会主催で「学校給食連続学習会～第1回 学校給食と放射能測定」を開催し、放射線測定の現状や具体的な測定方法と課題について学習しました。これを踏まえて、最新の学校給食における放射能測定と公表の現状や、今後の課題、議論点などをまとめました。(学校給食ニュース・生産者と消費者をつなぐ測定ネットワーク 牧下)

■放射能測定とは

食品の放射能測定が、空間線量の測定と大きく異なるのは2つの点です。空間線量の測定は、一般にガンマ線のみ、ガンマ線とベータ線の放射線を測定し、その結果をシーベルト(Sv)に換算して表示します。空間線量の場合、自然界にある放射線と東京電力福島第一原子力発電所事故(以後、東電原発事故と表記)や過去の核実験、チェルノブイリ原子力発電所事故などに由来する放射性物質が出す放射線との区別なく測定します。

自然界には、宇宙線や、地球にそもそも存在している放射性物質からの放射線があり、その放射能は一定ではありません。雨が降ることで一時的に高くなったり、太陽の影響などもあります。また、主に大地に含まれる物質の違いから、土地ごとにも放射能は異なります。それらを、総量として測るのが、空間線量の測定です。

食品の放射能測定は、基本的にガンマ線のみを測定します。測定は、空間線量の測定よりも難しくなります。ひとつには、自然放射能と人工放射能を分けないと、その食品がそもそも持っているものなのか、東電原発事故などが原因で人工放射能に汚染されたものなのかが分からなくなるからです。もうひとつ、微量の放射性物質を測定

することになりますので、空間線量の影響をできるだけ取り除かなければ、信頼性のある測定結果が出せない点です。その点が、空間線量測定よりも難しい作業です。

■放射能の基礎知識

ここでおさらいですが、東電原発事故で気をつけなければいけない放射線には3つの種類があります。アルファ線(α線)、ベータ線(β線)、ガンマ線(γ)線です。

アルファ線はヘリウムの原子核で、粒子線です。そのため、紙1枚で防げますが、そのエネルギーは非常に強く、体の中に取り込むと大きな影響を与えます。プルトニウム239が代表的な核種です。

ベータ線は電子です。粒子と波の性質を持っていてガンマ線よりも強いエネルギーを持っています。アルミ板で防ぐことができるぐらいの透過力です。

ガンマ線は、光と同じ電磁波の一種で、電離作用を持つ放射線です。透過力が高く、厚い鉛版などでなければ防ぐことができません。

原発事故では、ヨウ素131、セシウム134、セシウム137、ストロンチウム90が代表的な放射性物質として知られていますが、このうち、ヨウ素131、セシウム134、セシウム137は、ベータ線とガンマ線の両方を出します。ストロンチウム90はベータ線のみを出します。

■食品の放射能測定はガンマ線のみ

食品の放射能測定は、ガンマ線核種のみで行われます。ヨウ素131、セシウム134、セシウム137です。このうち、ヨウ素131は半減期が8日と短いため、現在は測定されることはありません。現在、食品の放射能測定は、放射性セシウムを対象に行われています。

なぜ、ガンマ線核種だけなのでしょう？

ガンマ線は、精密な測定をすることで、核種ごとに出す

ガンマ線に特徴があるからです。核種ごとに出すガンマ線のエネルギーが異なっていて、それを区別することで、核種を特定できます。

ところが、アルファ線やベータ線は、測定することはできますが、それが、どの核種由来の放射線なのかを特定することができません。どの核種から出るアルファ線もベータ線も、測定結果で区別することができないからです。そのため、たとえば、ストロンチウム90が食品(検体)の1kgの中にどのくらい(何ベクレル)入っているかを調べるためには、ストロンチウムのみを化学的な方法で分離して測定する必要があります。測定することは可能ですが、化学的な分離作業が必要なため、食品(検体)のまま測定はできず、測定には専門的な知識と時間が必要なのです。

■ベクレル(Bq)とは

食品の放射能測定で出てくる単位は、ベクレル(Bq)です。ベクレルは「1秒間に1つの原子核が崩壊して放射線を放つ放射能」を1ベクレルとする「放射性物質が持つ放射能の強さ」を表す単位です。1ベクレルのセシウム137は、重さ約10兆分の3グラム(0.000000000000031g)です。原子数として約14億個分となります。つまり、セシウム137が約14億個存在すると、1秒間にその約14億個のうちのひとつが崩壊して放射線を出す、ということになります。食品の場合、Bq/kgとして表示されます。1kg中にどれだけのBqがあるか、という意味になります。

ちなみに、2012年9月14日付けで原子力保安院(当時)が公表した東京電力推計大気中の放射能放出量は、2011年3月中だけで約900ペタベクレル(900,000,000,000,000,000Bq)です。このうち、セシウム134、137はそれぞれ約10ペタベクレルと推計されています。直接海水中に放出された量は含まれていません。

■食品中の放射性セシウムの測定

東電原発事故で放出された放射性セシウムのセシウム134(Cs134)とセシウム137(Cs137)は、半減期が約2年と約30年です。事故当時、およそセシウム134と137は同じぐらいの量が放出されたと考えられていますが、徐々にセシウム134の量は減っています。

食品の放射線を測定する際には、厚生労働省が定めた「食品中の放射性セシウムスクリーニング法」に基づい

て行われます。

測定装置ガンマ線スペクトロメータと呼ばれ、ガンマ線を測定して、ガンマ線のひとつずつのエネルギーの違いを分離していく装置です。大きく分けて2種類あり、厳密な測定が可能なのは、ゲルマニウム(Ge)半導体検出器(以下ゲルマ)、厳密な測定は少し難しいですが比較的安価で取り扱いやすいのがNaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータ(ヨウカナトリウム・タリウム・シンチレーションスペクトロメータ・以下シンチレーション)です。自治体が学校や学校給食センターなどに導入するのは、シンチレーションがほとんどで、ゲルマは専門の測定機関または自治体でも専門的な職員(研究員)等がいる場所に限られます。

ゲルマの場合、ガンマ線のエネルギーの違い(電子ボルト)を分離して表示することができますが、シンチレーションの場合、明確な分離はできないため、統計上の処理をしてグラフを描き、そこから数値を判断しています。

厚生労働省の「食品中の放射性セシウムスクリーニング法」に基づいている装置を使い、測定上の手順通りに測定をすれば、シンチレーションでも25Bq/kgまでは高い精度で測定できます。それより高い精度にするためには、検体の量を増やす、測定時間を長くする、自然界にあるバックグラウンド(背景)の放射線の量を減らすなどの工夫が必要になります。実際の学校給食現場では現実的ではありませんが、1検体あたり30分の測定時間を2時間や4時間にすることで、測定の精度は上がります。

そうやっても、誤検出や誤測定が起きる可能性があります。ひとつは、カリウム40の影響です。食品中には、カリウムが多い食品と少ない食品があります。カリウムには、放射性同位体のカリウム40(K40)が一定割合で存在しています。カリウム40は比較的高い電子ボルトを持つため、検体の中にカリウム40が多く存在していると光が反射して散乱するのと同じような感じで低い電子ボルトに散乱していきます(コンプトン散乱)。そのため、セシウム134などの測定値に影響することがあります。

また、検体の水分量や密度も影響します。水はそれ自体が放射線の遮蔽体になります。そのため、もっとも望ましい測定方法は、セシウムが揮発しない程度に炭化させて、水分を抜いた状態でたくさんの量を測定することです。しかし、実際には、食品(検体)の状態です。そのため、刻んだり、フードプロセッサーにかけるなどして

極力すき間を減らしたくさんの量を測定器に入れる(密度を上げる)ことで測定の精度を上げています。量が少なかったり、かさかさしたもので密度が低かったりすると測定の精度は落ちてしまいます。

■ どうして測定下限値は変わるのか？

測定結果を見ると、不検出(ND)とあって、測定下限値が書かれています。測定下限値は、食品(検体)の量や密度、測定時間、測定環境によって変化します。同じ測定装置、測定時間でも、検体の量や密度が変われば測定下限値は変わります。また、バックグラウンドの放射線の影響によっても変わります。

測定結果の示し方の中には、「検出限界は10Bq/kg未満です」と一律の表示をしているところもあります。これは、測定結果そのものではなく、10Bq/kg未満の測定値であれば不検出(ND)とします、という宣言であり、測定結果そのものではありません。

■ 測定結果の見方、表示のしかた

測定結果は、科学的な測定という面からは、検体の量、測定時間、バックグラウンド測定時間、測定値、測定誤差(±で表示)、測定下限値、および、測定日時と測定装置名や分析ソフトウェア名などが必要です。

目安としては、測定装置と測定時間、測定日を前提として、不検出であれば、測定下限値、検出されれば、測定値、測定誤差、測定下限値を個々に表示すると、測定結果の信頼性が高まります。

■ 実際の測定資料の例

実際の測定データを、生産者と消費者をつなぐ測定ネットワークの測定シートを元に見てみましょう。(次ページ)

ここでは、大豆を例にします。2011年の秋に生産された大豆2種で、1種類は茨城県産のもので、放射性セシウムが約47Bq/kgほど含まれています。もうひとつは、秋田県産のもので、不検出のものを用意しました。測定は、1500mlの専用容器(マリネリ容器)に約1kgの検体を入

れ、バックグラウンドを12時間、実際の測定を15分および2時間測ったものです。

図1、図2は、茨城産で15分、2時間のものです。手書きの○印で図2に比べて図1はふたつの山の間が明確に分かれていません。図2で説明すると右の大きな山はカリウム40です。少し離れた3つの山の右と左はセシウム134が出す放射線です。真ん中の一番高い山がセシウム137です。そこから左側はここでは考える必要はありません。

さて、図1、図2に対して、秋田県産の図3は、セシウムの山が見あたりません。しかし、ぎざぎざがあります。カリウム40などによる散乱でできる検出です。また、バックグラウンドを差し引いたグラフなので、その細かな変動などが影響します。

この3つの図から分かるように、40Bq/kg程度あればはっきりした検出になりますが、もし、1、2Bq/kg程度であれば、誤検出の可能性も出てきます。ソフトウェア上で「検出」となっても、グラフ(スペクトル)上で山が見られなければ、信頼性に欠けることがあり、再度の測定などでできるだけ信頼性を高める工夫をします。

■ 食品の測定と規制

2012年4月1日より、食品の基準値は、放射性セシウムで飲料水10Bq/kg、牛乳50Bq/kg、一般食品100Bq/kg、乳児用食品50Bq/kgとなりました。厚生労働省は、全国の都道府県市町村が公的に測定している食品等の測定結果を取りまとめ、月別にデータで掲載しています。ここでは、基準値とは関係なく測定結果を公表しており、どのような食品が検出されやすいのかのひとつの目安になります。(セシウムのみ)

また、出荷制限や制限解除についての情報も公表してあります。現在、地域によって出荷制限になっている食品の例として、きのこ、山菜、茶、柑橘類、栗、梅、淡水魚、底魚(タラ、ヒラメ、カレイ、スズキ、クロダイ等)、牛肉、イノシシ、シカ、クマなどがあります。

このような情報を入手しておくことも大切です。

図1 15分測定(茨城産)

Cs134 $18.99 \pm 3.211 (2.935)$ Cs137 $28.55 \pm 3.331 (2.517)$ 合計 $47.53 \pm 4.627 (5.452)$

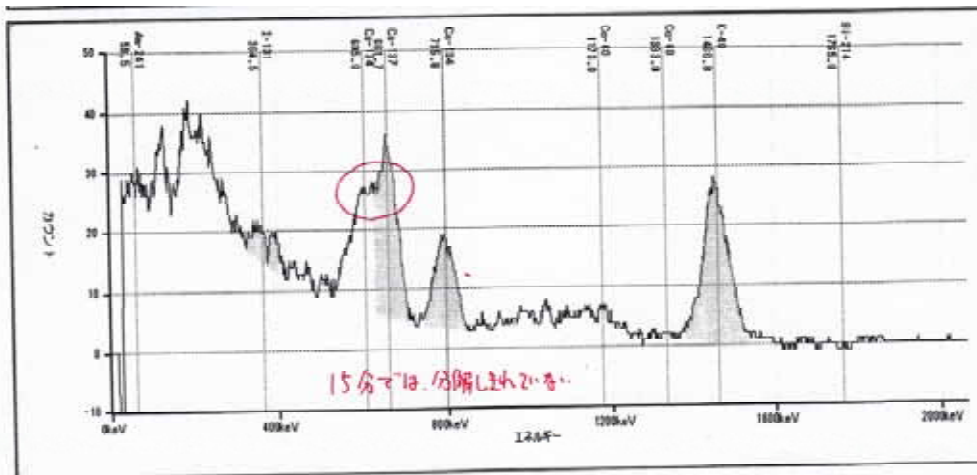


図2 2時間測定(茨城産・同一検体)

Cs134 $18.78 \pm 1.161 (0.984)$ Cs137 $28.67 \pm 1.200 (0.845)$ 合計 $47.45 \pm 1.670 (1.829)$

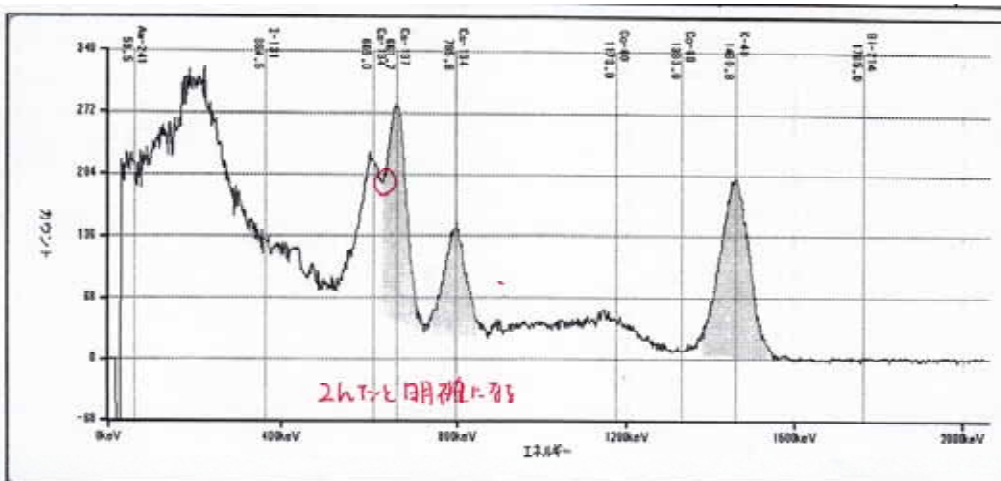
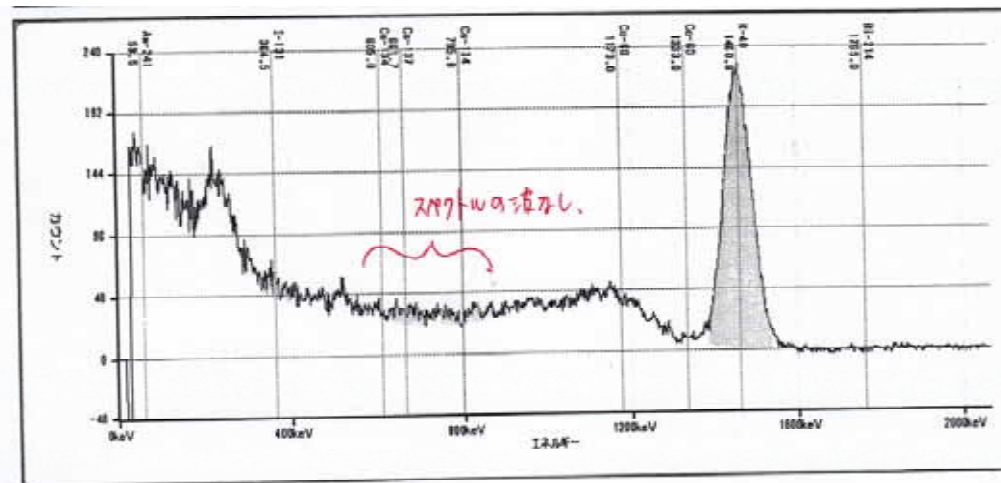


図3 2時間測定(秋田産)

Cs134 不検出(0.931) Cs137 不検出(0.800) 合計 不検出(1.731)



■学校給食測定の実状

学校給食における食品の放射能測定は、大きく2つの方法がとられています。事前に食材を測定する、事後に丸ごと(陰膳方式)で測定する、です。

事前の食材の測定は、一般に流通している食品は新基準値未満であることを前提にしつつ安心のための確認、または、学校給食に使う食材について独自の基準値での評価のために行われます。

事後の丸ごと測定は、学校給食で児童生徒がどのくらい内部被ばくするかを評価するためのものと言えます。

測定は、自ら行っている場合と、外部機関に出す場合があります、頻度や検体量、測定方法は自治体によりま

ちです。また、公表方法や測定結果の表示方法もまちまちです。

西日本で測定している自治体もありますが、東日本でも測定をまったく行っていない自治体もあります。

■学校給食の対応最新事例

2012年9月23日、検索サイトgoogleにて「学校給食 測定」で上位から市町村を選択したものを取り上げます。また、学校給食ニュース2012年3月号「学校給食における放射能測定の動きが急速に広がる」で紹介した2012年2月の検索の内容から変わっている自治体もあります。ぜひ、最新の情報を確認してください。

○茨城県つくば市(2012.9.21現在)

毎日3給食センターの各3品目(食材2+給食丸ごと)を測定、同日午後4時までにHPで公表、主な食材の産地も公表。食材は事前検査、丸ごとは当日検査。

米、小麦は茨城県学校給食会測定を表記。「検出限界」セシウム合計20Bq/kg、牛乳は、業者測定を不定期に更新。「検出限界値」核種ごと10Bq/kg。

日立アロカメディカル社製装置を使用。

「干しいたけにつきまは、肉類や魚介類などと同様に、十分に事前の検査を行い、安全性が確認されたものを使用しています。また、タケノコの産地は、西日本及び外国産を使用しています」

(食品放射能測定システム CMB-CSP-PAK 日立アロカメディカル株式会社製で測定)

検査日	検査品名	産地	測定方法	検出限界値(Bq/kg)	測定結果(Bq/kg)	検出限界値(Bq/kg)
2012.9.21	米	茨城県	日立アロカメディカル社製装置	<10	<10	<10
2012.9.21	小麦	茨城県	日立アロカメディカル社製装置	<10	<10	<10
2012.9.21	牛乳	茨城県	業者測定	<10	<10	<10
2012.9.21	卵	茨城県	日立アロカメディカル社製装置	<10	<10	<10
2012.9.21	豚肉	茨城県	日立アロカメディカル社製装置	<10	<10	<10
2012.9.21	鶏肉	茨城県	日立アロカメディカル社製装置	<10	<10	<10
2012.9.21	魚	茨城県	日立アロカメディカル社製装置	<10	<10	<10
2012.9.21	野菜	茨城県	日立アロカメディカル社製装置	<10	<10	<10
2012.9.21	果物	茨城県	日立アロカメディカル社製装置	<10	<10	<10

○東京都小金井市(2012.9.6現在)

「小金井市では「安全でおいしく温かい給食」の提供に努めています。学校給食の食材については、食品衛生法に基づく出荷制限のされていない産地のものを使用しており、安全は確保されているところです。

東京都において、「安全・安心のための学校給食環境整備事業(学校給食用食材の放射性物質検査)」が実施されることになりました。

小金井市では、学校給食における一層の安全・安心を確保するために本事業に参加し、その検査結果を公表します」

「これまでの検査結果 全ての食材で、スクリーニングレベル(基準値の1/2)を下回りました」

「次回は、2学期の実施を予定しています」

測定下限値を25Bq/kgとしている。

自治体独自ではなく、都の測定結果をまとめたもの。

検査結果報告書

区市町村名	検査品名	検査結果(単位: Bq/kg)			備考
		セシウム-134	セシウム-137	合計	
小金井市	学校給食	測定下限値未満	測定下限値未満	測定下限値未満	
小金井市	学校給食	測定下限値未満	測定下限値未満	測定下限値未満	
小金井市	学校給食	測定下限値未満	測定下限値未満	測定下限値未満	
小金井市	学校給食	測定下限値未満	測定下限値未満	測定下限値未満	
小金井市	学校給食	測定下限値未満	測定下限値未満	測定下限値未満	
小金井市	学校給食	測定下限値未満	測定下限値未満	測定下限値未満	

学校給食における一日分食材の放射性物質の測定について(平成24年)
 北方小学校(中区)給食使用食材(平成24年9月21日使用分)

○横浜市(2012.9.20現在)

毎日、小学校一校の給食で使用使用する十数種類の食材全ての検査。平成23年10月11日(火)から当面、平成24年12月まで。

測定方法 毎日1校を対象に、翌日使用する1食分の食材を測定。平成24年1月から輸入食材は検査しない。月単位納入食材は、使用前に一括測定。

測定は、一般社団法人日本海事検定協会、財団法人新日本検定協会、横浜市衛生研究所

結果は、測定日の翌日にホームページで公表。

「検出下限値 3.0 Bq/kg (3.0 Bq/kg未満は「不検出」となります。)ただし、米・麦・パン・牛乳を検査している横浜市衛生研究所に導入した機器による検査では、検出限界値が「1 Bq/kg未満」から「3Bq/kg未満」程度の幅で自動的に算出されます」

検査日	検査品目	生産地	測定結果(Bq/kg)		検査機関
			放射性セシウム		
			セシウム134	セシウム137	
平成24年9月20日	たまねぎ	北海道 北見市	不検出	不検出	日本海事 検定協会
平成24年9月20日	にんじん	北海道 中川郡 幕別町	不検出	不検出	日本海事 検定協会
平成24年9月20日	こまつな	群馬県 利根郡 昭和村	不検出	不検出	日本海事 検定協会
平成24年9月20日	じゃがいも	北海道 虻田郡 京町	不検出	不検出	日本海事 検定協会
平成24年9月20日	豆腐	長野県 長野市	不検出	不検出	日本海事 検定協会

○東京都国立市(2012.9.21現在)

NaIシンチレーション検出器内蔵ガンマ線放射能モニターAT1320A(ベラルーシ/ATOMTEX社製)、約30分の測定。「午前中に、牛乳、小・中学校の提供給食の3検体の測定を行い、そのほかの給食食材についても必要に応じて測定を行います」

提供給食の測定結果(牛乳は除く)

■小学校

測定日	製品名	測定結果			備考
		ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	
H24.9.21	・ほくほん ・カッパなっとう ・いわたましまめ ・けんろんじる	検出せず(2.3)	検出せず(3.0)	検出せず(3.2)	
H24.9.20	・ほくほん ・クリームコーンスープ ・ボークハンバーグマグロソース ・ポインキヤベツ	検出せず(2.4)	検出せず(3.1)	検出せず(3.1)	
H24.9.19	・ほくほん ・やさいのみそしる ・さといものもろみあん ・すだちゼリー ・カボチャのあん	検出せず(2.3)	検出せず(2.9)	検出せず(3.1)	
H24.9.18	・ほくほん ・ヘルシードファイカレー ・コーンスロー ・ポインキヤベツ	検出せず(2.2)	検出せず(3.0)	検出せず(3.1)	
H24.9.14	・うめわかめごはん ・あつめしのマーボーいため ・ひんぎやう ・まいたけ	検出せず(2.4)	検出せず(3.2)	検出せず(3.1)	

学校給食食材の測定検査の結果について

■牛乳の測定結果

測定日	測定結果			備考
	ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	
H24.9.21	検出せず(2.5)	検出せず(3.2)	検出せず(3.4)	
H24.9.20	検出せず(2.5)	検出せず(3.3)	検出せず(3.5)	
H24.9.19	検出せず(2.5)	検出せず(3.3)	検出せず(3.5)	
H24.9.18	検出せず(2.5)	検出せず(3.3)	検出せず(3.5)	
H24.9.14	検出せず(2.5)	検出せず(3.3)	検出せず(3.5)	
H24.9.13	検出せず(2.5)	検出せず(3.2)	検出せず(3.5)	
H24.9.12	検出せず(2.5)	検出せず(3.2)	検出せず(3.4)	
H24.9.11	検出せず(2.5)	検出せず(3.3)	検出せず(3.5)	
H24.9.10	検出せず(2.5)	検出せず(3.3)	検出せず(3.5)	
H24.9.7	検出せず(2.5)	検出せず(3.2)	検出せず(3.4)	
H24.9.6	検出せず(2.5)	検出せず(3.3)	検出せず(3.5)	
H24.9.5	検出せず(2.5)	検出せず(3.3)	検出せず(3.4)	
H24.9.4	検出せず(2.5)	検出せず(3.2)	検出せず(3.4)	

給食食材の測定結果

測定日	品目	産地	測定結果			備考
			ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	
H24.9.21	さんま電田揚げ	岩手県	検出せず(2.3)	検出せず(3.1)	検出せず(3.2)	9/24使用予定(中学校)
H24.9.13	千切ごぼう	群馬県	検出せず(2.5)	検出せず(3.5)	検出せず(3.3)	
	餅のさんま揚げ	群馬県 群馬県 たけのこ：愛知県	検出せず(2.4)	検出せず(3.2)	検出せず(3.3)	9/14使用予定
H24.7.13	みかんお餅	愛知県	検出せず(2.3)	検出せず(3.0)	検出せず(3.2)	7/17使用予定
H24.7.3	アユ	山口県	検出せず(2.6)	検出せず(3.4)	検出せず(3.0)	7/6使用予定(中学校)
H24.6.26	調理用小麦粉	三重県	検出せず(4.0)	検出せず(5.2)	検出せず(5.4)	ちりめん(特)
	パン用小麦粉	アメリカ、カナダ	検出せず(3.5)	検出せず(4.5)	検出せず(4.9)	日清製粉(特)

○測定機器：ベラルーシ ATOMTEX社製 NaI(Tl)シンチレーション検出器
 ○検出限界値：10Bq/kg (検出限界値未満は、「検出せず」と表記します)

○測定場所：福島市西部学校給食センター (単位：Bq/kg)

No.	採取日	品目	産地	測定結果	
				放射性ヨウ素	放射性セシウム
				ヨウ素-131	セシウム-134/137(合計)
公表日：平成24年9月21日 福島市西部学校給食センター 使用分					
1	H24.9.21	給食(混合)	-	検出せず	検出せず
2	H24.9.21	牛乳	福島県	検出せず	検出せず
3	H24.9.21	まごはん	福島県	検出せず	検出せず
4	H24.9.21	千切ごぼう	群馬県	検出せず	検出せず
5	H24.9.21	鶏さば	千葉県	検出せず	検出せず
6	H24.9.21	たこやき	中国・台湾	検出せず	検出せず

○福島市(2012.9.21現在)

主要食材、主食、牛乳の個別(センター)と給食丸ごと(主食、牛乳を含む)を測定。毎日測定、毎日公表。

主食、牛乳、副食用食材を2~3人分採取、ミキサーにかけて試料をつくり測定。

センター4台に加え、2学期よりベラルーシATOMTEX社製 NaI(Tl)シンチレーション検出器を単独校24校に導入。2012年5月から、15分測定に統一し、検出下限値を10

Bq/kgに統一。「放射性セシウム134、137の合算値が20Bq/kgを超えた場合に主食と牛乳以外の献立の提供を見合わせる」としている。

○神奈川県海老名市(2012.9.21現在)

2012年2学期より、センターを統合。給食を1週間ごとにまとめて測定、結果を原則翌週の火曜日に公開。財団法人日本冷凍食品検査協会によるゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメリーによる核種分析検査、測定時間2,000秒(約30分)。

牛乳を除いたものと牛乳のみを測定。測定結果(Bq/kg)と、そこから、内部被曝の実効線量(μ Sv)を記載。

検査日	提供期間	日数	総重量 (kg)	測定結果 (Bq / kg)						内部被曝の 実効線量 (μ Sv) ※2		
				放射性ヨウ素131		放射性セシウム134 (Cs134)		放射性セシウム137 (Cs137)				
				※1 検出 値	※1 実効 値	※1 検出 値	※1 実効 値	※1 検出 値	※1 実効 値			
9月15日	8/5 ~ 8/14 (牛乳を除く)	8	3,435	300	限界値未満	Cs137 と合計 で10	300	限界値未満	Cs134 と合計 で10	300	限界値未満	0 ~ 0.046 未満
	8/5 ~ 8/14 (牛乳のみ)	8	1,800	300	限界値未満	Cs137 と合計 で99	300	限界値未満	Cs134 と合計 で99	300	限界値未満	0 ~ 0.022 未満
検査期間の合計		8	5,035									0 ~ 0.068 未満

今回の検査では、放射性物質は検出限界値未満となりました。

- ※1 新基準値は、平成24年4月発行の飲料水、牛乳の値を参考に記載しています。
(放射性セシウムの基準値は合計値となりました。)
なお、放射性ヨウ素は半減期が短く、既に検出が認められないことから、新基準値は設定されませんでした。
このため、当初の暫定規制値を参考に記載しています。
- ※2 内部被曝の実効線量は、給食により人体が受ける放射線の影響度を表します。
-食物から受ける放射線の量は1年間で250 μ Sv~300 μ Svとされています。
-緊急時における食品の放射能測定マニュアル(平成14年3月 厚生労働省発行)に基づき計算しています。
- ※3 検出限界値は、検出できる最小値で、検体ごとに変動します。これを下回る場合は限界値未満と表示しています。
- ※4 測定結果が限界値未満だった場合、計算される内部被曝の実効線量は、セシウム134、137が0から検出限界値と等量まで含まれていたと仮定して計算しています。
- ※5 測定の結果、検出された項目(核種)はその実効を用い、限界値未満の項目(核種)については0から検出限界値と等量まで含まれていたと仮定して計算しています。
- ※6 検査期間の合計欄には、牛乳を除く検体と牛乳のみの検体のそれぞれを合算した値で記載しています。

○神奈川県藤沢市(2012.9.21現在)

2012年2学期からは、使用食材の検査を前週に実施。40 Bq/kgを超えた食材は使用を控えることにしている。測定機関は8月30日より日本環境株式会社、検出下限値を3Bq/kgとしている。

また、1週間分のまとめて、丸ごと検査を学校ごと順番に行っている。ここでは、検出下限値は測定ごとに異なっており、表示している。それにあわせて、内部被曝の実効線量(μ Sv)も表示している。

食材、献立を公表。

1. 2学期分検査結果

検査日	検査品目	生産地	測定結果(Bq/kg)			食材の 使用日
			放射性 ヨウ素 131	放射性セシウム		
			セシウム 134	セシウム 137		
平成24年 9月18日	牛乳 (200ml)	藤沢、平塚 伊勢原、埼玉 板木、山形	<3	<3	<3	平成24年 9月18日
平成24年 9月18日	キャベツ	群馬	<3	<3	<3	平成24年 9月24日

学校給食で実際に児童に提供した給食1食分を1週間分ごとまとめて測定した検査結果と内部被曝の実効線量については、次のとおりです。
9月(8/5~9/28)の検体は村岡小学校の給食を採取します。

提供期間 (日数)	合計重量 (g)	検査日	測定結果(Bq/kg)			内部被曝の 実効線量(μ Sv) ※2
			放射性 ヨウ素131	放射性 セシウム134	放射性 セシウム137	
9/10~9/14 (5日分)	320	9月10日	検出せず <0.57	検出せず <0.89	検出せず <0.69	0 ~ 0.048
9/5~9/7 (3日分)	184	9月11日	検出せず <0.77	検出せず <0.99	検出せず <0.77	0 ~ 0.040

- ※1 検査機関: 日本環境株式会社
- ※2 「<」の横の数値は、検出下限値を表しています。検出下限値は測定ごとに異なります。
- ※3 内部被曝の実効線量は、「緊急時における食品の放射能測定マニュアル」(厚生労働省医薬局食品保健部監視安全課)により「検出せず」の場合、セシウム134と137が検出下限値を測定値と仮定して計算しています。

○山梨県甲府市(2012.9.20現在)

NaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータ(CAPTUS-3000 A)を教育委員会に設置し、翌日使用食材2品目を測定し、測定日に公開。国の基準を上回る数値が測定されたら使用中止。検出下限値10Bq/kgとしている。

小学校(平成24年度)
Aブロック(墨村、豊地、甲斐、玉孫、東、舞鶴、国母、貫川、池田、石田、朝田)
(※※は山梨県による放射性物質検査の本検査結果。検査場所: 甲北保健福祉事務所。検査機器: NaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータ)

測定日	使用日	測定品目	産地	測定結果(Bq/kg)	
				放射性セシウム	
				セシウム134	セシウム137
8月20日	8月21日	しめじ	長野	検出せず	検出せず
8月18日	8月20日	米	山梨と青森のブレンド米	検出せず	検出せず
8月13日	8月14日	セロリー	長野	検出せず	検出せず
9月12日	9月13日	そば	千葉	検出せず	検出せず
9月10日	9月11日	牛乳	山梨	検出せず	検出せず
9月8日	9月7日	コシヒカリ	千葉	検出せず	検出せず

○静岡県掛川市(2012.9.12現在)

1週間分をまとめて測定。2012年9月より、12の調理場(センター)の食材を一部統一する。3センターでは、静岡より以東の食材を週1回測定する。

NaI(Tl)シンチレーション検出器によるガンマ線スペクトロメトリーで、1リットルを、1検体1000秒測定。

1 給食の測定結果(牛乳含まない)

NO	調理場名等	測定対象日	測定日	ヨウ素131 (B-131)	セシウム134 (Cs-134)	セシウム137 (Cs-137)
1	給食文化館こようの丘	H24.9.10(提供前)	H24.9.10	検出せず	検出せず	検出せず
		H24.9.10 ~ H24.9.14		検出せず	検出せず	検出せず
2	大東学校給食センター	H24.9.10(提供前)	H24.9.10	検出せず	検出せず	検出せず
		H24.9.10 ~ H24.9.14		検出せず	検出せず	検出せず
		H24.9.11 前回の検体分取				

2 給食食材の測定結果

NO	調理場名等	食材使用日	測定日	ヨウ素131 (B-131)	セシウム134 (Cs-134)	セシウム137 (Cs-137)
1	給食文化館こようの丘 上記1のNO.4~11の調理場 チンゲンサイ(静岡県掛川産)	H24.9.10	H24.9.10	検出せず	検出せず	検出せず
2	大東学校給食センター 塩ネギ(静岡県掛川産)	H24.9.10	H24.9.10	検出せず	検出せず	検出せず
3	大涌賀学校給食センター さつまいも(静岡県掛川産)	H24.9.14	H24.9.14	検出せず	検出せず	検出せず

3 牛乳の測定結果

NO	名称等(牛乳A~C)	測定対象日	測定日	ヨウ素131 (B-131)	セシウム134 (Cs-134)	セシウム137 (Cs-137)
1	牛乳A (大東学校給食センター-常盤の幼稚園のみ)	H24.9.10 ~ H24.9.14	H24.9.10	検出せず	検出せず	検出せず
2	牛乳B (大涌賀学校給食センター-常盤の幼稚園のみ)	H24.9.10 ~ H24.9.14	H24.9.14	検出せず	検出せず	検出せず
3	牛乳C (上記以外のすべての給食、小、中学校)	H24.9.10 ~ H24.9.14	H24.9.10	検出せず	検出せず	検出せず

◎「検出せず」とは、放射性物質が存在しない、又は検出限界値(注)未満であることを示します。

【検出限界値】

・放射性ヨウ素131:.....3.2~4.2Bq/kg

・放射性セシウム134:.....3.7~4.7Bq/kg

・放射性セシウム137:.....4.9~5.9Bq/kg

※検出限界値は、上記の分析方法(容量1L・1000秒で測定)で、検出できる最小値で検体毎に変動します。

○茨城県水戸市(2012.9.20現在)

簡易測定器で測定し、放射性セシウムが50Bq/kg以上の場合には、念のためゲルマニウム半導体検出器による精密検査を行い、検査結果が出るまでの間は、その食材を使用した献立を変更又は中止。

測定下限値25Bq/kgとしている。

測定結果から、まるごと検査と、食材の抽出測定を行っている。米は、「米飯」として測定しているようである。

測定日	食材	産地等	放射性物質濃度(Bq/kg)	
			セシウム134	セシウム137
平成24年9月20日	牛乳、いかの唐揚げ、枝豆サラダ、のりたまごふりかけ、じゃがいもの味噌汁	共同調理場献立B	不検出	不検出
平成24年9月20日	バターロール、牛乳、なすとツナのトマトソーススパゲッティ、フルーツヨーグルト、小松菜サラダ	共同調理場献立A	不検出	不検出
平成24年9月20日	ねぎ	茨城県	不検出	不検出
平成24年9月20日	なす	茨城県	不検出	不検出
平成24年9月19日	ご飯、牛乳、筑前煮、即席漬、納豆	共同調理場献立B	不検出	不検出
平成24年9月19日	ご飯、牛乳、揚げ餃子、にらともやしのみそ汁、冬瓜のスープ	共同調理場献立A	不検出	不検出
平成24年9月19日	鶏肉	岩手県	不検出	不検出
平成24年9月19日	豚肉	茨城県	不検出	不検出
平成24年9月19日	枝豆(冷凍)	北海道	不検出	不検出
平成24年9月19日	鶏肉	北海道	不検出	不検出
平成24年9月19日	冬瓜	茨城県	不検出	不検出

○茨城県水戸市共同調理場

水戸市が使用する精密検査機種の検出限界値はセシウム134、セシウム137合算20ベクレル/kg

検出限界値以下は「検出せず」と表示

検査月日	食材名	産地	検査結果(単位:ベクレル/kg)		
			ヨウ素131	セシウム134	セシウム137
平成24年8月24日	もやし	福島県	検出せず	検出せず	検出せず
平成24年8月24日	人参	北海道	検出せず	検出せず	検出せず
平成24年8月24日	ニラ	福島県	検出せず	検出せず	検出せず
平成24年8月24日	長ネギ	茨城県	検出せず	検出せず	検出せず
平成24年8月27日	ナス	茨城県	検出せず	検出せず	検出せず

食材使用日:平成24年9月24日 検査日:9月21日

●測定結果

食材名	産地	測定値 (Bq/kg)		厚生労働省による基準値(Bq/kg)
		セシウム134	セシウム137	
玉葱	北海道	不検出	不検出	100
厚焼きたまご(冷凍)	群馬県	不検出	不検出	100
キャベツ	群馬県	不検出	不検出	100
いりごま	埼玉県	不検出	不検出	100
枝豆(冷凍)	三重県	不検出	不検出	100

○福島県喜多方市(2012.9.21現在)

NaI(Tl)シンチレータのTN300Bベクレルモニターを市内5カ所に設置、「検出測定値」20Bq/kgで、食材をおおむね2日米に検査している。

○群馬県みどり市(2012.9.21現在)

主要な食材を事前におおむね5品目ほど測定し、公表している。

大間々学校給食センターにて、ヨウ化ナトリウムシンチレーション検出器放射能測定装置GDM-15(スウェーデン王国ガンマデータ・インストゥルメント社製)を設置、検出限界値10Bq/kgとしている(核種ごと)。

○千葉県匝瑳市(2012.7.23現在)

市で実施としているが、実際は県の測定事業であり、月数点の食材のみ。

2012年5月以降、食材の事前検査をしている。結果は月ごとにホームページで公表。

○神奈川県厚木市(2012.9.21現在)

ATOMTEX社製AT1320Aを使用し、週2回、食材を測定。保護者からの要望がある食材の測定も行っており、明示している。☆が保護者要望、★が保護者要望及び保健給食課長選定。

注釈として、「不検出」とは、放射性物質が「検出下限値」に満たない(検出されない)ことを表します。「<」の横の数値は、検出下限値を表しています。検出下限値は、検体の比重、測定条件などにより検体ごとに変動します」を明記。

最終行、9月11日のれんこんから検出限界値を超える測定結果が出たため、翌日、外部のゲルマにて再測定し、結果を公表している。

■検査結果(平成24年9月22日)

※合計重量の違いは、主に学校による給食提供回数と小中の給食喫食量の違いによるものです。
※測定結果が検出下限値未満の場合は「検出せず」とします。

給食提供期間	ブロック	※合計重量	検査日	放射性ヨウ素131測定結果(Bq/kg)	放射性セシウム134測定結果(Bq/kg)	放射性セシウム137測定結果(Bq/kg)	検出下限値
平成24年9月12日～平成24年9月18日(4回分)	小学校A	2.9kg	平成24年9月19日	検出せず	検出せず	検出せず	1Bq/kg
平成24年9月12日～平成24年9月18日(4回分)	小学校B	2.4kg	平成24年9月19日	検出せず	検出せず	検出せず	1Bq/kg
平成24年9月12日～平成24年9月18日(4回分)	中学校	2.5kg	平成24年9月19日	検出せず	検出せず	検出せず	1Bq/kg

学校給食用食料放射能検査結果 (千葉県教育委員会 学校給食用食料放射性物質検査事業による)

検査日 平成24年7月17日(金) 検査会場 生駒教育事務所

分析機関 NaIT(T)シンチレーションシステムベータローラーによる各種分析機

番号	品名	検査品名	産地	放射性セシウム134	放射性セシウム137	備考
1	八日市場学校給食センター	キャベツ	千葉県 匝瑳市	不検出 (7.6)	不検出 (8.1)	7月2日実施済
2	野末学校給食センター	かぼちゃ	千葉県 匝瑳市	不検出 (8.2)	不検出 (8.8)	7月2日実施済
3	八日市場学校給食センター	なす	千葉県 匝瑳市	不検出 (8.2)	不検出 (8.4)	7月10日実施済
4	野末学校給食センター	じゃがいも	千葉県 匝瑳市	不検出 (7.2)	不検出 (7.8)	7月10日実施済
5	八日市場学校給食センター	ズッキーニ	千葉県 匝瑳市	不検出 (7.8)	不検出 (8.2)	7月17日実施済
6	野末学校給食センター	しいたけ(厚皮)	千葉県 匝瑳市	不検出 (7.7)	不検出 (8.4)	7月17日実施済

お問い合わせ 匝瑳市八日市場学校給食センター ☎ 0479-720-5001
野末学校給食センター ☎ 0479-67-4872

検査日	検体名	ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
平成24年9月20日(木曜日)	長わぢ(岩手県産)	不検出 <2.90	不検出 <4.26	不検出 <4.59
	にんにく(宮城県産)	不検出 <3.02	不検出 <4.62	不検出 <4.98
	干しいたけ(秋田県産)	不検出 <2.52	不検出 <3.85	不検出 <4.15
平成24年9月18日(火曜日)	☆マッシュルーム(千葉県産)	不検出 <3.06	不検出 <4.51	不検出 <4.84
	キャベツ(群馬県産)	不検出 <3.03	不検出 <4.63	不検出 <5.00
平成24年9月13日(土曜日)	☆キャノン(岩手県産)	不検出 <3.28	不検出 <4.82	不検出 <5.18
	干し椎茸(秋田県産)	不検出 <2.47	不検出 <3.78	不検出 <4.08
	なす(栃木県産)	不検出 <3.21	不検出 <4.78	不検出 <5.08
平成24年9月11日(土曜日)	セロリ(長野県産)	不検出 <3.03	不検出 <4.62	不検出 <5.00
	長わぢ(群馬県産)	不検出 <3.42	不検出 <5.03	不検出 <5.41
	★大のぼろ(長野県産)	不検出 <2.77	不検出 <4.25	不検出 <4.57
9月12日 ★れんこん(茨城県産)	不検出 <3.88	4.29 <4.35	6.27 <6.56	
9月12日 ★れんこん(茨城県産)		不検出 <3.00	7.00 <3.00	

○兵庫県西宮市(2012.9.22現在)

市内3ブロック(小2、中1)ごとに、献立1週間分(主食・牛乳含む)を1検体として、まるごと測定。

測定は、外部の検査機関でゲルマニウム半導体検出器を使用。検査翌週のホームページで公表。検出下限値を1Bq/kgとしている。

○茨城県常総市(2012.9.21現在)

日立アロカメディカル株式会社食放射能測定システムを使用し、食材の一部をサンプリング測定。毎週月曜日に給食センターの給食を丸ごと測定。

検出限界値は食材及び条件により差が出るとして、検出限界値を表示。

<9月第2週>

検査日	使用日	使用する食材の対策施設	検査品名	産地産地	測定結果(Bq/kg)	
					放射性セシウム	放射性セシウム
					セシウム134	セシウム137
9月10日(月)	9月10日(月)	豊岡学校給食センター	きゅうり	常総市	不検出 (<11.0)	不検出 (<9.84)
9月10日(月)	9月10日(月)	豊岡学校給食センター	給食一食分	-	不検出 (<9.85)	不検出 (<8.61)
9月10日(月)	9月10日(月)	玉宇野給食センター	給食一食分	-	不検出 (<12.0)	不検出 (<10.6)
9月10日(月)	9月11日(火)	公立保育所	きつまいも	常総市	不検出 (<11.2)	不検出 (<10.0)
9月11日(火)	9月11日(火)	玉宇野給食センター	大根	北海道	不検出 (<9.27)	不検出 (<8.20)
9月11日(火)	9月12日(水)	公立保育所	小豆	山梨県	不検出 (<9.54)	不検出 (<8.60)
9月11日(火)	9月12日(水)	小貝保育園	キャベツ	群馬県	不検出 (<11.5)	不検出 (<10.2)
9月11日(火)	9月12日(水)	福西保育園	キャベツ	茨城県	不検出 (<11.8)	不検出 (<10.6)
9月12日(水)	9月12日(水)	豊岡学校給食センター	なす	常総市	不検出 (<12.3)	不検出 (<11.2)
9月12日(水)	9月13日(木)	公立保育所	なす	茨城県	不検出 (<11.3)	不検出 (<10.2)
9月12日(水)	9月13日(木)	石下保育園	なす	常総市	不検出 (<10.5)	不検出 (<9.10)
9月13日(木)	9月13日(木)	玉宇野給食センター	キャベツ	長野県	不検出 (<12.8)	不検出 (<12.2)
9月13日(木)	9月14日(金)	公立保育所	にら	栃木県	不検出 (<11.2)	不検出 (<9.85)
9月13日(木)	9月14日(金)	ましろ/東ましろ保育園	大根	北海道	不検出 (<12.5)	不検出 (<11.2)
9月14日(金)	9月14日(金)	豊岡学校給食センター	きゅうり	常総市	不検出 (<13.0)	不検出 (<11.5)
9月14日(金)	9月14日(金)	玉宇野給食センター	長わぢ	茨城県	不検出 (<11.0)	不検出 (<10.3)
9月14日(金)	9月18日(火)	公立保育所	梨	茨城県	不検出 (<12.7)	不検出 (<11.5)

単位はBq/kg(ベクレル/キログラム)です。
測定結果欄の「不検出」は「検出限界値」未満であることを表します。検出限界値は測定する食材及び条件により若干の差があります。

(食品放射能測定システム 千代田テクノル RADIQS300で測定しています。)

○茨城県稲敷市(2012.9.21現在)

食材を市でほぼ2品目ずつ測定。

食品放射能測定システム千代田テクノルRADIQS300を使用。

「※「不検出とは、()内ですした、検査器の「検出限界値」未満であることを表します。限界値は測定する食材等により異なります」として、検出限界値を表示。

検査日	検査品目	使用日	施設	生産地	測定結果 (Bq/kg)		
					放射性ヨウ素131	放射性セシウム134	放射性セシウム137
9月9日	マッシュルーム	9月4日	東茨城給食センター	福島県	不検出 (<4.90)	不検出 (<8.70)	不検出 (<7.50)
9月9日	なし	9月4日	飯川地区自校方式給食	茨城県	不検出 (<5.20)	不検出 (<8.40)	不検出 (<7.10)
9月9日	たまねぎ	9月8日	江戸崎学校給食センター	北海道	不検出 (<4.60)	不検出 (<7.30)	不検出 (<6.30)
9月9日	きょうり	9月8日	飯川地区自校方式給食	茨城県	不検出 (<6.10)	不検出 (<5.60)	不検出 (<6.50)
9月9日	はくさい	9月8日	江戸崎学校給食センター	長野県	不検出 (<4.70)	不検出 (<7.90)	不検出 (<7.20)
9月9日	大根	9月8日	東茨城給食センター	北海道	不検出 (<5.50)	不検出 (<8.70)	不検出 (<7.60)
9月9日	チンゲン菜	9月7日	東茨城給食センター	小笠原	不検出 (<5.60)	不検出 (<8.90)	不検出 (<8.10)

○神奈川県横須賀市(2012.9.18現在)

食材は月1回、3品目ずつ測定。1校を1週間丸ごとまとめて測定、学校は測定ごとに変える。

測定は、一般社団法人日本海事検定協会が、ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析。測定時間2,000秒。

丸ごと検査は、内部被曝の実効線量(μSv)を表示。

検出限界が測定ごとに異なることを表示。

なお、2011年9月から牛肉、10月から干しいたけの使用を見合わせ、2012年度も見合わせ継続中。主な食材の使用予定と実績をホームページで公表。

食材使用予定月	検査日	測定食材	産地	測定結果 (Bq/kg)	
				放射性セシウム134	放射性セシウム137
9月	平成24年8月28日(火)	キャベツ	群馬県高崎市磯田村	検出せず <0.99	検出せず <0.99
		キュウリ	青森県つがる市	検出せず <0.89	検出せず <0.99
		コマツナ	群馬県利根郡昭和村	検出せず <0.88	検出せず <0.91
7月	平成24年6月29日(金)	カボチャ	神奈川県横須賀市	検出せず <0.72	検出せず <0.98
		ジャガイモ	千葉県八潮市	検出せず <0.96	検出せず <0.85
		ナガネギ	長崎県岩井市	検出せず <0.80	検出せず <0.95

検査結果と内部被曝の実効線量

提供期間(日数)	検体採取小学校	合計重量(kg)	検査日	測定結果 (Bq/kg)		内部被曝の実効線量(μSv)
				放射性セシウム134	放射性セシウム137	
9月10日～9月14日(5日分)	岩戸野止東	2.990	9月14日	検出せず <0.55	検出せず <0.46	0～0.003未満
9月15日～9月17日(3日分)	神前	2.625	9月17日	検出せず <0.41	検出せず <0.51	0～0.021未満
7月21日～7月19日(3日分)	大塚吉	4.714	7月20日	検出せず <0.54	検出せず <0.47	0～0.058未満
7月21日～7月16日(5日分)	望洋	3.68	7月9日	検出せず <0.57	検出せず <0.62	0～0.052未満
6月25日～6月29日(5日分)	衣笠	3.967	7月2日	検出せず <0.38	検出せず <0.53	0～0.003未満
6月18日～6月22日(5日分)※	公園大塚吉	3.05	6月25日	検出せず <0.52	検出せず <0.45	0～0.036未満
11日～6月16日(5日分)	橋原	2.87	6月15日	検出せず <0.49	検出せず <0.47	0～0.003未満
5日	高塚					
3日～6月8日(5日分)	太田	2.790	6月8日	検出せず <0.49	検出せず <0.46	0～0.032未満

測定場所: 田村市学校給食センター
測定機器: NaIシンチレーション検出器

ND=不検出
検出限界値: 25ベクレル/kg

No.	品目	産地	測定結果		
			放射性ヨウ素131	放射性セシウム134	放射性セシウム137
1	豚もも肉	茨城県	ND	ND	ND
2	きつまいも	茨城県	ND	ND	ND
3	キャベツ	青森県	ND	ND	ND
4	にら	茨城県	ND	ND	ND
5	まねぎ	北海道	ND	ND	ND
6	もやし	福島県	ND	ND	ND

○福島県田村市(2012.9.21現在)

食品放射能測定システム(NaIシンチレーション検出器)を使用し、野菜、食肉など使用頻度の高い生鮮品4から5品目程度を1kg程度で測定と、給食1食分に含まれる量の測定を実施。

9月のよけにんで				赤の食品	緑の食品	黄色の食品	家でとりにくい食品	給食センターからのメッセージ	給食1食分の放射性物質測定検査結果 単位(ベクレル/kg) ND=不検出 検出限界値25ベクレル/kg		
日	主菜	おかず・デザート	4品	放射性ヨウ素131	放射性セシウム134	放射性セシウム137			ヨウ素131	セシウム134	セシウム137
3月	つくね ひじきのために たいこんのみそしる			ND	ND	ND		きゅうり、ピーマンは、ピタパン、豚肉とごんぎょう、卵の卵黄を注意してご利用ください。夏(7月)禁止にひつたりの期間です。	ND	ND	ND
4月	しるみずかなフライ フレッシュリタ はるさめスープ のりかけ			ND	ND	ND		煮干しのひじきは、大根のひじき類です。大根には、皮の部分を取り除く必要があります。	ND	ND	ND
5月	ポークウィンナー かぼちゃのバターに コーンスープ			ND	ND	ND		長野県産の代表のひじき、かぼちゃは、ピタパンの皮とカボチャやピタパンがたつたひじきで、病気を予防します。	ND	ND	ND
6月	とうもろこしバーブ おかしとひじきのあめりか じむがいのみそしる			ND	ND	ND		じゃがいもは「大根のひじき」といわれるくらい、ピタパンが豊富です。	ND	ND	ND
7月	ミートコロッケ 入たまごサラダ			ND	ND	ND		きゅうり、「お餅」といって、お餅は、お餅を食べてください。お餅は、お餅を食べてください。お餅は、お餅を食べてください。	ND	ND	ND

平成24年4月から毎日1校1検体、給食食材の放射性物質濃度測定を実施しています。
※測定する食品は国産で生産されたものの安全を確認するための措置ですが、季節的に西日本が産地となる食品を使用しております。その場合はその食品を測定しています。

○神奈川県鎌倉市(2012.9.21現在)

食品・環境放射能測定装置(ゲルマニウム半導体検出器)セイコー・イージー・アンドジー(株)製 SEG-EMSを山崎浄化センターに導入。

2012年4月から、翌日使用の食材毎日1校2検体を選定し測定。検出下限値を3.0Bq/kgとしている。

それ以前には、放射能簡易測定キットを16小学校に配置し、測定させていた(3月まで)。

→3月まで使われていた「簡易」測定キット。遮蔽などはない。

測定日	使用日	学校名	測定品目	生産地	放射性セシウム134	放射性セシウム137
平成24年9月21日	臨時	市立小学校	白五(ペースト)	北海道札幌市 北海道釧路市	不検出	不検出
平成24年9月21日	臨時	市立小学校	餅	栃木県宇都宮市	不検出	不検出
平成24年9月20日	平成24年9月21日	開成小学校	米	神奈川県	不検出	不検出
平成24年9月20日	平成24年9月21日	開成小学校	キャベツ	群馬県高崎市	不検出	不検出
平成24年9月19日	臨時	市立小学校				
平成24年9月19日	平成24年9月20日	七重村小中学校				
平成24年9月19日	平成24年9月20日	七重村小中学校				
平成24年9月18日	臨時	市立小学校				



給食食材(長ねぎ)の放射性物質濃度の測定

給食センター名	測定日	品目	産地	放射性セシウム(Cs-134・137)
佐田中学校給食センター	9月10日	ニラ	市内産	不検出
		ショルダーベーコン	デンマーク/カナダ産	不検出
北方小学校給食センター	9月11日	キュウリ	市内産	不検出
		玉ねぎ	市内産	不検出
新田小学校給食センター	9月11日	鮎	県内産	不検出
		絹白木	県内産	不検出
佐田小学校給食センター	9月13日	赤ゴシ	市内産	不検出
		ジャガイモ	市内産	不検出
東和小学校給食センター	9月12日	煮干し	市内産	不検出
		豚肉	県内産	不検出
早田小学校給食センター	9月13日	ソーシム	栃木県産	不検出
		白米	長野県産	不検出

○宮城県登米市(2012.9.18現在)

NaI(Tl)シンチレーションカウンターを用いたガンマ線ペクトロメーター米国CAPINTEC社製LCAPTUS-3000Aを使用。豊里登米学校給食センターに設置し、月曜日から木曜日まで測定し、その結果を翌週火曜日に公表。「不検出」を「放射性物質が存在しない、または検出下限値(10ベクレル/kg)未満である」と表示。

使用機器: CAPTUS-3000A
シンチレーションスペクトロメーター
(※)使用機器: TN300Bベクレルモニター
スクロールで過去の結果を見ることができます。▼
公表日: 平成24年9月21日

検査日	使用日	使用施設名	検査品目	生産地	放射性セシウム(Bq/kg)		
					Cs-134	Cs-137	Cs合計
9月21日	9月24日	小美玉学校給食センター	ひんぎ	九州	不検出	不検出	不検出
9月21日	9月24日	小美玉学校給食センター	大豆	青森県	不検出	不検出	不検出
9月21日	9月24日	玉里学校給食センター	にんじん	北海道	不検出	不検出	不検出
9月19日	9月20日	小美玉学校給食センター	鶏肉	茨城県	不検出	不検出	不検出
9月18日	9月20日	小美玉学校給食センター	しいたけ	岩手県	不検出	不検出	不検出
9月18日	9月20日	玉里学校給食センター	イチゴ	ベトナム	不検出	不検出	不検出
9月18日	9月19日	小美玉学校給食センター	アーモンド	笠間市	不検出	不検出	不検出
9月18日	9月19日	小美玉学校給食センター	にんじん	北海道	不検出	不検出	不検出
(※) 9月18日	9月19日	玉里学校給食センター	牛乳	茨城県	不検出	不検出	不検出
(※) 9月14日	9月18日	小美玉学校給食センター	米	小美玉市	不検出	不検出	不検出
9月14日	9月18日	小美玉学校給食センター	さつまいも	茨城県	不検出	不検出	不検出

○茨城県小美玉市(2012.9.21現在)

シンチレーションスペクトロメーターCAPTUS-3000AおよびTN300Bベクレルモニターを使用し、翌日に使用する食材から3から4品目を測定。「検出下限値は、試料の質量等によって変動するため、測定ごとに異なります。使用機器における検出下限値の目安は、下記のとおりとなります。CAPTUS-3000A シンチレーションスペクトロメーター: 10Bq/kg TN300B ベクレルモニター: 3Bq/kg」としているが、表示は「不検出」のみ。

○茨城県境町(2012.9.18現在)

食材のサンプル測定を行っている。NaIシンチレーション検出器(ヨウ化ナトリウムシンチレーション)を導入、「検出せず」とは、放射性物質が存在しないか、検出限界値(20Bq/Kg:測定時間による)以下としている。

(単位: Bq/Kg)

放射性物質測定結果				
検査日	品目	産地名	放射性ヨウ素131	放射性セシウム(134・137)
9月14日	チンゲン菜	取手市	検出せず	検出せず
8月31日	長ねぎ	境町	検出せず	検出せず
8月31日	精米	境町	検出せず	検出せず
7月19日	きゅうり	境町	検出せず	検出せず
7月6日	精米	境町	検出せず	検出せず
7月6日	なす	境町	検出せず	検出せず
6月22日	白米	取手市	検出せず	検出せず
6月8日	長ねぎ	境町	検出せず	検出せず
6月8日	精米	境町	検出せず	検出せず
6月1日	きゅうり	五霞町	検出せず	検出せず
5月25日	大根	境町	検出せず	検出せず

○神奈川県綾瀬市(2012.9.21現在)

市で提供する2種類の献立を各1週間分まとめて測定、翌週火曜日に市のホームページで公表。民間測定機関委託。

「表中の「〇〇未満」は測定できる限界値で検体ごとに異なり、これを下回る場合は「検出せず」表示をしています」。

内部被曝実効線量(μ Sv)に換算したのもも掲載。

週1品、食材を測定。測定日の翌日(水曜日)にホームページで公表。

「表中の「3.0未満」は、放射性物質濃度が当該数値で表される検出下限値に満たないこと」

検査日	提供期間	日数	総重量(kg)	放射性セシウム134	放射性セシウム137	【参考】内部被曝の換算線量(μ Sv(マイクローベール))			
9月18日	9月10日から9月14日	5	340	検出せず 0.53未満	検出せず 0.45未満	0	～	0.040	未満
9月10日	9月4日から9月7日	4	284	検出せず 0.53未満	検出せず 0.41未満	0	～	0.033	未満
7月17日	7月9日から7月13日	5	340	検出せず 0.45未満	検出せず 0.55未満	0	～	0.040	未満
7月9日	7月2日から7月6日	5	340	検出せず 0.50未満	検出せず 0.55未満	0	～	0.043	未満
7月2日					測定結果(Bq/kg)				
	測定日	食材の使用日	測定品目	生産地	放射性セシウム134	放射性セシウム137			
6月25日	9月18日	9月19日	牛乳	神奈川県	検出せず 3.0未満	検出せず 3.0未満			
6月18日	9月12日	9月13日以降	米飯	千葉県	検出せず 3.0未満	検出せず 3.0未満			
6月11日	9月9日	9月4日以降	米飯(売入り)	米:埼玉県 麦:石川県	検出せず 3.0未満	検出せず 3.0未満			
	7月10日	7月11日	牛乳	神奈川県	検出せず 3.0未満	検出せず 3.0未満			
	7月4日	7月5日	小豆30%	神奈川県	検出せず 3.0未満	検出せず 3.0未満			
	6月29日	7月2日	小玉スイカ	茨城県	検出せず 3.0未満	検出せず 3.0未満			
	6月18日	6月19日	ごぼう	青森県	検出せず 3.0未満	検出せず 3.0未満			
	6月12日	6月13日	しめじ	長野県	検出せず 3.0未満	検出せず 3.0未満			
	6月5日	6月6日	にら	茨城県	検出せず 3.0未満	検出せず 3.0未満			

学校給食連続講座 第2回 2012年12月15日(土)

学校給食ニュース編集責任者牧下圭貴さんと学ぶ～10年後の子どもたちにできること～

第1回目の「学校給食と放射能測定」に続き、第2回目を開催します。第2回は、食の安全全般を整理し、学校給食にとっての食の安全とは何か、基本的な考え方を参加者と意見交換します。

また、第1回目に続き、放射能問題(測定、表示等)についても、参加者の皆さんと意見交換する予定です。

■第2回:2012年12月15日(土)10:00～12:30

テーマ「食の安全とは、学校給食が目指すものは？」

■会場:大地を守る会六本木会議室(日比谷線・大江戸線「六本木」出口3より徒歩5分)

■参加費:500円(資料代を含む)

■主催(申込み・問合せ):全国学校給食を考える会

Tel 03-3402-8902 Fax 03-3402-5590 E-mail kyushoku@member.daichi.or.jp

■予定内容 学習会「食の安全とは」 意見交換会「食の安全、放射能測定等を踏まえて」

学校給食全国集会「2013学校給食討論集会(仮)」 2013年3月28日(木)開催

2013年全国集会の日程を決定しました。場所、内容等はこれからですが、取り急ぎ日程のみご連絡します。

日程 2013年3月28日(木) 東京都内または近郊

詳細は決まり次第ホームページならびに本紙で案内します。

お問い合わせは、全国学校給食を考える会までお願いします。

学校給食連続講座 特別講演

天笠啓祐氏「表示で知りたい食品の安全」のお知らせ 2012年11月30日(金)

2012年9月29日に、「放射能測定ってなに？」というテーマで、牧下圭貴さんを講師に、第1回を開催した連続講座。今回は、第2回ではなく、「特別講演」として、天笠啓祐氏の講座をお知らせいたします。

今、消費者庁を中心に、食品表示一元化検討会が進行しています。「食品表示一元化」とは、現在、食品の表示について3つある、食品衛生法、JAS法、健康増進法をひとつのくくりとして、「消費者にわかりやすい表示」、を主眼に進められているものです。しかし残念なことに、消費者庁は、消費者のほうではなく事業者の意見ばかりにとらわれて、「わかりやすい表示」を逆手にとり、「簡便な表示」、「何も書いてない表示」にしようとしています。その中身は、「原料原産地表示」、「食品添加物表示」、「遺伝子組み換え表示」の徹底した「簡素化・無視」にあります。

現在の表示の問題点を明らかにするとともに、消費者が求める理想的な表示とはどのようなものなか、天笠さんと一緒に考えてみましょう。表示は、学校給食にとっても必要不可欠なもの。よい学習の機会になれば幸いです。

■2012年11月30日(金)10:00~12:00

■テーマ「表示で知りたい食品の安全」

■会場:東京ウィメンズプラザ 視聴覚室(東京都渋谷区神宮前5-53-67)

渋谷駅より徒歩12分、地下鉄表参道駅より徒歩7分

■参加費:500円(資料代を含む)

■主催:大地を守る会 協力:日本消費者連盟

■申込み・問合せ先:全国学校給食を考える会(担当:前川、牛島)

Tel 03-3402-8902 Fax 03-3402-5590

E-mail kyushoku@member.daichi.or.jp

学校給食ニュース 146号

発行:学校給食ニュース

編集:学校給食ニュース編集事務局

会費:年額3,500円(4月から3月、送料込み年10回)

〒106-0032 東京都港区六本木6-8-15

第2五月ビル2階 大地を守る会気付

全国学校給食を考える会

お問い合わせは…全国学校給食を考える会

電話:03-3402-8902 FAX:03-3402-5590

E-mail kyushoku@member.daichi.or.jp (購読・会費等)

E-mail desk@gakkyu-news.net (内容・投稿等)

学校給食ニュース発行団体

●全日本自治団体労働組合・現業局

千代田区六番町1(電話03-3263-0276)

●日本教職員組合・生活局

千代田区一ツ橋2-6-2(電話03-3265-2175)

●日本消費者連盟

新宿区西早稲田1-9-19-207(電話03-5155-4765)

●全国学校給食を考える会 左記住所、電話番号

情報シート

地域の課題や実践例、ニュースへの感想やご意見もお願いします。写真などはデータや実物を送ってください。

送り先 〒106-0032 東京都港区六本木6-8-15 第2五月ビル2階 全国学校給食を考える会

TEL03-3402-8902 FAX03-3402-5590 E-mail desk@gakkyu-news.net

記入者名

団体名

ご連絡先(電話・FAX・e-mail)

ご住所(または、都道府県・市町村名)

私は、 栄養士 調理員 保護者 その他()です。

ニュースに掲載する場合、名前は 掲載可 掲載不可(匿名) です。